

第1回石巻地域普及活動検討会

日時：令和6年9月2日(月) 午後1時30分から午後3時まで
場所：宮城県石巻合同庁舎 201, 202会議室

1 開 会

2 挨拶

宮城県石巻農業改良普及センター所長 渋谷智行

3 室内検討

(1) 令和6年度プロジェクト課題の取り組み状況報告

イ) 課題No. 2 「小ねぎ産地における次世代の人材育成」

ロ) 課題No. 1 産地を形成する多様な担い手のステップアップによるいちごの
産出額向上

ハ) 課題No. 3 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産

ニ) 課題No. 4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

4 意見交換

5 閉 会

資料A

プロジェクト課題中間実績

課題 No.1 産地を形成する多様な担い手のステップアップによる

いちごの産出額向上

1 対象名 石巻いちご生産組合(16戸)、河南いちご生産組合(13戸)、やもといちご生産組合(7戸)
(株)いちごランド石巻、(株)トライベリーファーム、(株)アグリパレット、(株)黄金ファーム
(株)イグナルファーム、(株)サンエイト、(株)アソラ

2 目標

(定性的目標)

- ・JA 共販部会が収量向上や省力化等につながる新たな技術に取り組むことで高齢化による面積減少を補い共販量・金額が増加する。
- ・各農業法人の収益向上・経営安定に向けた課題が改善される。
- ・新規参入者が基本技術を習得し安定した収量を得られる。

(R6:定量的目標)

- ・R6 年産いちご販売金額 85.8 千万円

3 活動内容、成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)JA 部会への技術改善と環境制御など新しい技術向上に向けた支援

○環境制御や土壌消毒方法の改善など新たな技術の取り組みを支援し実践されたことにより、平均収量が R3 産 3.8→R6 産 4.1t/10a と全体に向上した。販売金額は R6 産で前年よりも約 46 百万円増加し、4億 78 百万円となり、細かい栽培管理の重要性が認識された。

○個別に環境制御以外の課題の聞き取りを行い、収量、販売金額向上に向けて R7 産の育苗管理や本ぼ準備を進めている。

◎本ぼ定植後は、環境制御などの技術向上及び個別に課題改善に向けた指導を継続する。

(2)各農業法人の課題改善による収益向上への取り組み支援

○R6産栽培では各法人が改善点や重点的に取り組む課題を見出し、個々の目標達成に向けたオーダーメイドの指導を実施してきた結果、3法人の販売金額は前年対比でプラスになった。(R6 産聞き取り 4億 12 百万円)

○販売金額が向上した一方で、生産コストの増加や人材の確保・育成などが課題として浮き出され、今後の対応策を模索している。

◎R7産に向けた課題を確認しているが、基本的には前作で実施した取り組みを継続して支援していく。

(3)新規参入者への技術向上・安定支援

○(株)黄金ファーム:R6 産栽培も高設栽培2作目で基本栽培技術の習得が図られ、さらなる技術向上に意欲が高まっている。R7 産は、品種をにこにこベリーに変更したことから、新たに品種の特性について情報提供や技術指導を行い、基本的栽培技術のさらなる習得を支援している。

○(株)アソラ:R6 産(2 作目)も基本管理の指導を継続した結果、収量や販売額が向上し、基本的栽培技術の習得が重要であるということが認識された。

◎R7 産においても、栽培技術向上と生産安定に向けた基本栽培技術の指導を継続する。

4 対象からの意見及び評価

環境制御技術等の取り組みや栽培管理技術の習得により、収量が安定していると感じている。さらに栽培技術の向上により収量、販売額を増やし、いちご部門の経営安定を図りたいので、今後も技術的な指導や情報提供を継続してほしい。((株)黄金ファーム栽培担当者)



JA 部会への個別指導



農業法人での勉強会



新規法人指導

課題 NO.2 小ねぎ産地における次世代の人材育成

1 対象名

JA いしのまきスリムねぎ部会青年部(11人)

2 目標

(定性的目標)

- ・青年部員個人が、自身の経営に関する課題を把握し、改善に向けた取組を実施するようになる。
- ・青年部員内で産地の課題が共有化され、部会全体を巻き込んだ産地活性化への取組が検討される。

(R6:定量的目標)

- ・R4年実績よりも出荷量が上回った青年部員数 4人

3 活動内容, 成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1) 青年部員の個別課題分析・解決支援

○青年部員のうち副部会長の2人を重点指導対象とし、聞き取りにより、A氏は栽培環境と経費節減、B氏は労働力不足が課題であることを見出し、課題解決に向けて取り組むことを共有した。A氏には経営管理の重要性を説明したところ、定期的な経費確認が必要と自ら認識したことから、パソコンによる複式簿記記帳を指導した。B氏には農業における短期雇用サービスや、農福連携の取組について情報提供した結果、労働力確保に前向きになった。

◎A氏へは、今後も定期的な簿記記帳を促すとともに、決算書の作成や経営分析ができるまで定期的な指導を継続していく。B氏には、外部労働力(短期バイト、農福連携)の活用に向けて、情報提供を継続する。なお、労働力不足は青年部員B氏以外にもみられるため、外部労働力の確保の取組について、青年部を含め部会全体へ提案していく。

(2) 青年部による産地活性化に向けた取組検討支援

○部会全体に対し、高齢化による部会全体の出荷量低下について課題提起したところ、部会の将来や課題解決に向けて考える雰囲気や青年部員・高齢部会員ともに浸透してきた。

昨年度の夏季の高温障害による出荷量低下の課題に対し、国の補助事業について情報提供したところ、青年部員4人(他部会員4人)が事業を活用し高温対策に取組み、安定生産に向けた意識の高まりが見られた。

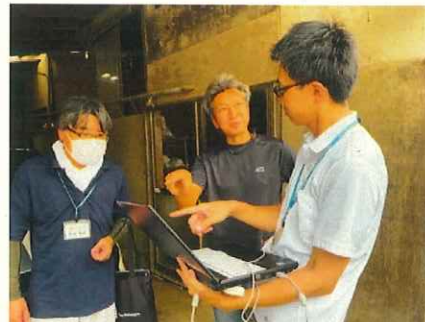
◎青年部に加え、高齢部会員の中にも共同選別場の導入に興味をもつ者も現れていることから、共同選別場の先行事例の資料を部会に提示しながら選別場導入の可否を問い、これを契機にした産地活性化に向けた議論の場を設けていく。

4 対象からの意見及び評価

昨年度からの指導のおかげで自分の圃場の状態を把握でき、生産改善に取組んだ結果、昨年まで収穫できなかった3~5月においても今年は無事に出荷することができた。夏の猛暑対策について案内いただいた補助事業を活用して取組み、より品質のよいスリムねぎの出荷を目指している。共同選別場の件はぜひとも進めたいため、引き続き支援をお願いしたい(スリムねぎ部会青年部長)



青年部員への労働力確保の提案



高温対策資材の温度データを見ながら意見交換

課題 NO.3 課題名 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産

1 対象名

(株)めぐいと、(農)おしお北部、(農)エコルフーム

2 目標

(定性的目標)

- ・各農業法人の生産技術の向上により、収量の増加が図られる。
- ・経営シミュレーションを活用した輪作体系や経営収支が検討できるようになる。

(R6:定量的目標)

- ・ばれいしょ R5 平均収量 2.2t/10a 目標収量 2.4t/10a(R6) → 2.6t/10a(R7)
- ・さつまいも R5 平均収量 1.5t/10a 目標収量 1.8t/10a(R6) → 2.0t/10a(R7)

3 活動内容、成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)ばれいしょ技術対策支援活動

- 作付前の透水性調査結果や排水対策の情報提供によって、排水性の改善に対する意識の向上がみられた。
- 排水性改善に加え、病害虫防除や追肥がマニュアルどおり実施されたことにより、茎葉の黄化が遅れ生育期間が伸び、収穫物の肥大が促進された。
- 栽培技術の底上げを目的に、課題対象を含めた管内生産法人と関係機関が常に連携し、タイムリーな現地検討会や情報共有による栽培技術の向上を図った。
- ◎次作の収量向上に向け、生産法人や関係者による実績検討会を開催し、補助暗渠などの排水対策による効果の情報共有を図るほか、ほ場の効率的な活用に向けた輪作体系について検討を行う。

(2)さつまいも技術対策支援活動

- 病害虫・雑草防除が指導したとおりに実施されたことにより、ほ場は適切に管理され、順調に生育している。
- 品質の高い生産物の出荷に向け、収穫作業と収穫後の管理に向けた打ち合わせを行い、技術の共有を図った。
- ◎現地検討会と実績検討会を通じて、生育状況やばれいしょの排水対策との比較など作業体系の分析を行い、作業の効率化に向けて支援する。

(3)情報発信活動

- 取組状況や技術情報などを掲載した「ポテト通信」を5月と7月の2回発行し、市や土地改良区、農業委員会、農協等へ配布し、取り組みの周知や新規取組候補者の掘り起こしを行った。
- ◎ポテト通信は今後3回の発行を予定しており、関係者間の情報共有と取組候補者の拡大に向け活用する。
- ◎ばれいしょ及びさつまいもの新規参入の参考となる作業体系や経営収支などを整理した現地事例集を発行する。

4 対象からの意見及び評価

透水性調査や排水対策の指導により、順調に生育し、昨年よりも手応えを感じている。今後も継続した支援をお願いしたい。(株)めぐいと代表)



透水性調査の様子



萌芽状況の確認、打ち合わせ



現地検討会

課題 NO. 4 課題名 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

1 対象名

(株)クリーンライス、(有)高須賀農産、(農)アスターファーム、(農)ドリーム真野、(農)たてファーム・和、蛇田集団転作組合、(株)ぱるファーム大曲

2 目標

(定性的目標)

・各生産者自身が収量・品質を上げるための改善策を自ら考え、実践する。

(R6:定量的目標)

・目標達成率:R5 年収量を 10%上回る組織が 3/7 組織

3 活動内容, 成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)収量・品質向上のための栽培技術指導

- 種子大豆播種前研修会を実施し、播種やほ場準備について指導した所、排水性の改良や堆肥施用に対する意識の向上が見られた。
- 栽培管理のポイントや作業適期の周知及び現状・課題の把握を促すために栽培管理チェックシート(以下チェックシート)の作成・配布を行った所、作業内容についてポイントを再確認した様子が見られたほか、自組織の栽培に合わせたチェック項目の修正を考えている様子であった。
- ほ場巡回、ほ場審査による雑草、病害虫防除の適期作業を支援した結果、今作の作業は順調に進み、次の作業の検討が進んでいる。
- ◎今後も病害虫防除、適期収穫作業を促しながら、チェックシートの記帳・活用状況を点検するとともにチェックシートを活用した今作の振り返りを行う検討会を実施し、次作に向けた課題の抽出とチェックシートの見直しを図る。

(2)アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化(作業時間、人数等)の評価

- 新たな機械体系による作業の高速化について検討を促すために、高速畝立て播種機実演会を実施した所、導入について検討する生産組織が見られた。
- 生産組織毎にこれまでの選別作業について聴取したところ、手選別に過大な労働時間、労働費がかかっていることが共有され、改善の必要性が認識された。
- ◎手選別に係る労力軽減について、色彩選別機で省力化をしている先進事例を収集したことから、今後、対象を伴った視察を行い、機械選別について検討を促す。
- ◎アグリテック(高速畝立て播種機、ドローン、RTK 等)の活用によるメリットとデメリットについて整理し、研修会等で情報提供を行う。

4 対象からの意見及び評価

- ・チェックシートを活用して作業と記録を行い、日々の栽培管理に役立てたいと思う。(農)ドリーム真野 代表理事)
- ・ほ場の排水機能改善のための柵の付け替えや乾燥対策も検討していきたいので、今後も相談にのって欲しい。(蛇田集団転作組合 組合長)
- ・研修会で指導のあった地下灌漑による灌水技術を取り入れ、乾燥対策を実施していきたい。(農)たてファーム・和 総務部長)



種子大豆播種前研修会



高速畝立て播種機実演会



種子大豆生育調査